調 査

2025年度の新入社員アンケートから

―「住む環境として秋田県が好き」を理由に県内就職を決意―

当研究所では、毎春、県内の新入社員を対象にアンケート調査を行っている。県内全６先の商工会議所にご協力いただき、同会議所が開催する新入社員講習会に参加した方々から回答を得た。

調査結果から、県内での就職を決意した理由では「住む環境として秋田県が好き」という回答が最も多く、就職先を決めた理由でも大学・大学院卒を中心に「地域の発展に貢献できそう」との回答が多くなった。また、就職した先で定年までの勤続を希望する回答割合は、未定や転職希望といった他項目を上回り最も高くなったものの、低下傾向が続いている。

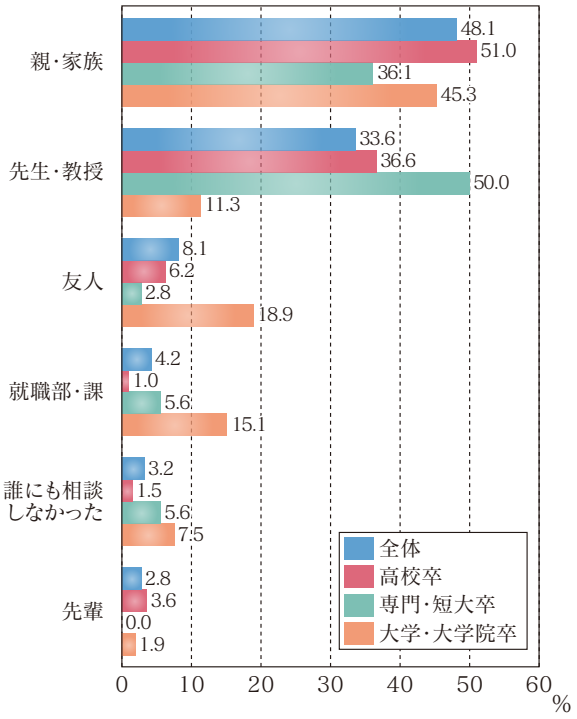
１　アンケート結果

Ｑ１　就職に関して誰に一番相談しましたか

一番相談した相手として、全体では、「親・家族」(48.1％) が前回調査 (48.8％) から0.7ポイント低下したものの、回答割合は最も高くなった（図表１)。

最終学歴別に各項目をみると、「親・家族」の回答割合は、高校卒 (51.0％) で最も高くなり、次いで、大学・大学院卒 (45.3％)、専門・短大卒 (36.1％) となった。「先生・教授」は、専門・短大卒 (50.0％) と高校卒 (36.6％) が大学・大学院卒 (11.3％) の３倍以上となった。また、大学・大学院卒では、「友人」(18.9％) と「就職部・課」(15.1％) が二桁台となり、他学歴を上回った。

図表１　就職に関して誰に一番相談しましたか



調　査　要　領

１　調査目的　新入社員の就職に関する意識を把握する。

２　調査期間　2025年3月12日～４月16日

３　調査方法　新入社員講習会における無記名アンケート方式

４　回 答 者　283名

回答者の内訳

地域別	大館市	能代市	秋田市	大仙市	横手市	湯沢市	合 計
人数（人）	41	49	99	30	41	23	283
構成比 (％)	14.5	17.3	35.0	10.6	14.5	8.1	100.0

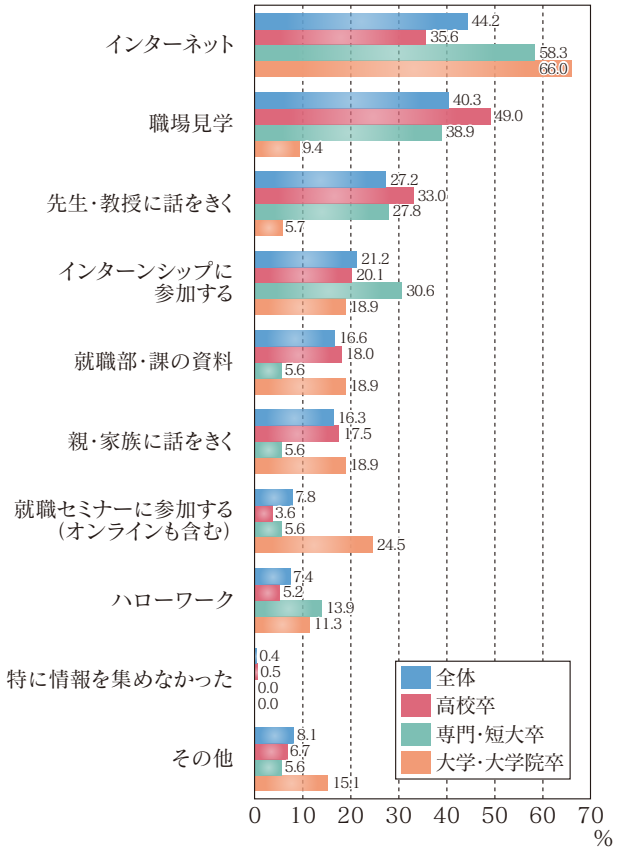
最終学歴別	高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合 計
人数（人）	194	36	53	283
構成比 (％)	68.6	12.7	18.7	100.0

Q２　効果的だった情報収集方法は何ですか（２項目複数回答）

全体では、回答割合が高い順から、「インターネット」（44.2%）と「職場見学」（40.3%）が４割台となり、「先生・教授に話をきく」（27.2%）と「インターンシップに参加する」（21.2%）が２割台となった（図表２）。

最終学歴別では、「インターネット」は高校卒（35.6%）、専門・短大卒（58.3%）、大学・大学院卒（66.0%）となり、最終学歴が上がるにつれて割合が上昇した。「就職セミナーに参加する（オンラインも含む）」も同様に、大学・大学院卒（24.5%）が最も高くなった。対照的に、「職場見学」は高校卒（49.0%）、専門・短大卒（38.9%）、大学・大学院卒（9.4%）となり、学歴が上がるにつれて割合は低下した。同様に、「先生・教授に話をきく」も高校卒（33.0%）が最も高くなった。

図表２　効果的だった情報収集方法は（２項目複数回答）



Q３　就職活動で利用した機関やイベント

全体では、県と秋田労働局などが主催する「秋田県合同就職説明会・面接会」（21.2%）、「ハローワーク」（20.4%）の利用割合がともに２割を超え、他の機関やイベントを上回った。（図表３）

上記機関・イベントを「オンラインでのみ」または「対面、オンラインどちらも」利用した回答者56名のうち、オンライン利用によるメリットを得た割合は76.8%にのぼった（図表４）。

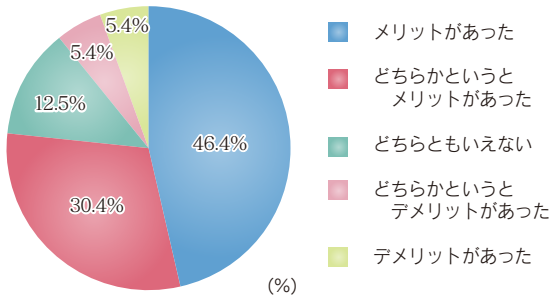
具体的なメリットの内容では、回答割合が高い順から、「交通費や宿泊費を節約できた」（58.1%）、「学業と就職活動を両立しやすかった」（41.9%）、「遠方にある企業にも応募しやすかった」（32.6%）となった（図表５）。

図表３　就職に関する機関やイベントの利用割合

（単位：%）

秋田県合同就職説明会・面接会	21.2
ハローワーク	20.4
人材ビジネス業大手主催の会社説明会・面接会	13.2
あきた就職活動支援センター	6.4
あきた就職フェア	6.0

図表４　オンライン利用による影響



図表５　オンライン利用による具体的なメリットは（２項目複数回答）

（単位：%）

交通費や宿泊費を節約できた	58.1
学業と就職活動を両立しやすかった	41.9
遠方にある企業にも応募しやすかった	32.6
１日に複数の企業と面接できた	16.3
緊張せずリラックスして臨めた	14.0
面接の対策に取り組みやすかった	7.0
その他	2.3

（注）いずれかの機関やイベントをオンラインにより利用した経験があり、且つ「メリットがあった」、「どちらかというとメリットがあった」とした回答者43名

Q４　県外での就職を希望したことがありますか

県外就職を希望したことがある割合は、全体の38.2%となった（図表６）。前回調査（45.5%）から7.3ポイント低下し、４年ぶりに３割台となった。

最終学歴別では、大学・大学院卒（63.5%）が専門・短大卒（37.1%）と高校卒（31.6%）を20ポイント以上上回った。

県外就職を希望したことのある回答者107名のうち、実際に県外で就職活動を行った割合は34.6%となった（図表７）。前回調査（38.6%）から4.0ポイント低下し、過去10回の調査で最も低くなった。

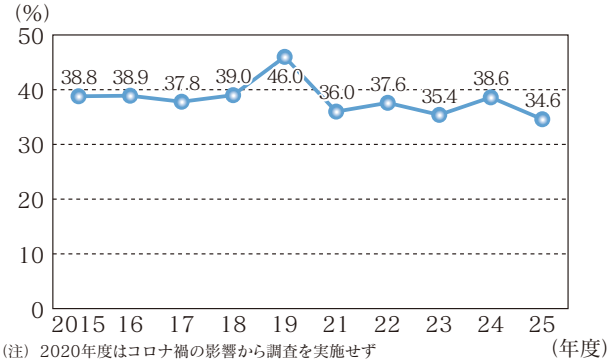
また、県外での就職を希望した理由としては、「都会での生活を体験してみたかった」（40.2%）が４割台となり、他項目を大きく上回った（図表８）。

図表６　県外での就職を希望したことがありますか

（単位：%）

	ある	ない	覚えていない
全体	38.2	57.1	4.6
高校卒	31.6	63.2	5.2
専門・短大卒	37.1	60.0	2.9
大学・大学院卒	63.5	32.7	3.8

図表７　実際に県外で就職活動を行った割合



（注）2020年度はコロナ禍の影響から調査を実施せず

図表８　県外での就職を希望した理由

（単位：%）

都会での生活を体験してみたかった	40.2
地元よりも条件のよい勤め先があった	24.3
地元や親元を離れて生活してみたかった	18.7
地元に希望職種の勤め先がなかった	11.2
その他	5.6

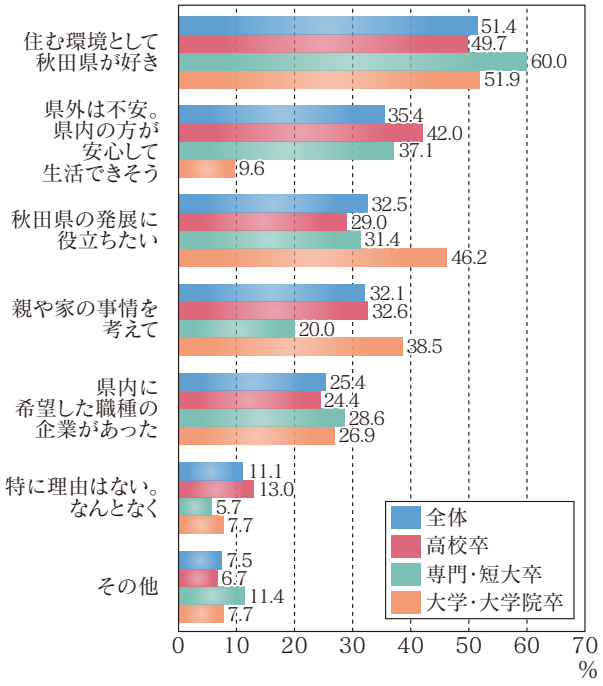
Q５　県内での就職を決めた理由は何ですか（３項目複数回答）

全体では、「住む環境として秋田県が好き」（51.4%）が５割を超えた（図表９）。

「住む環境として秋田県が好き」は、いずれの最終学歴でも最も割合が高くなった。次いで、「県外は不安。県内の方が安心して生活できそう」は高校卒（42.0%）と専門・短大卒（37.1%）で、「秋田県の発展に役立ちたい」は大学・大学院卒（46.2%）で割合が高くなった。

地域別では、「住む環境として秋田県が好き」は大仙市（63.3%）で６割を超えた（図表10）。大仙市は、「県外は不安。県内の方が安心して生活できそう」（50.0%）、「秋田県の発展に役立ちたい」（46.7%）でも他地域を上回った。

図表９　県内での就職を決めた理由は何ですか（３項目複数回答）



図表10　上位３項目で回答の割合が高い開催地

住む環境として秋田県が好き	大仙市	63.3%
	湯沢市	59.1%
県外は不安。県内の方が安心	大仙市	50.0%
	能代市	40.8%
秋田県の発展に役立ちたい	大仙市	46.7%
	秋田市	33.3%

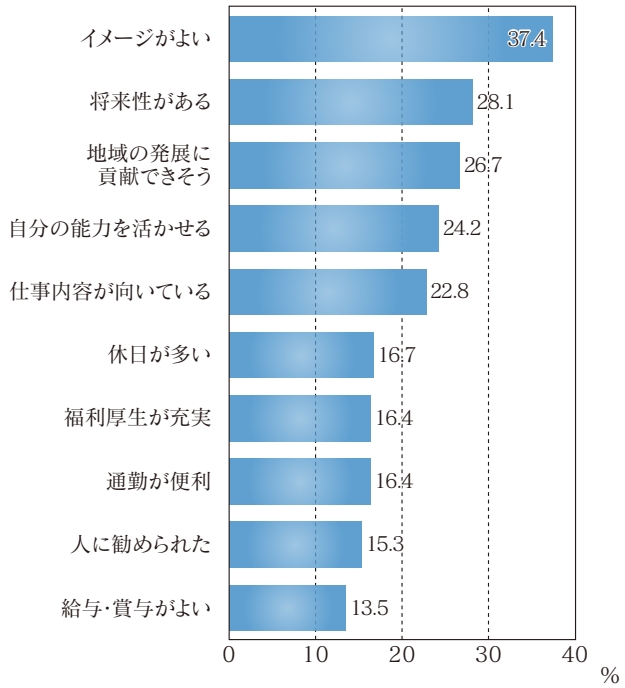
Q6　就職先を選んだ理由は何ですか（３項目複数回答）

全体では、回答割合が高い順から、「イメージがよい」（37.4%）、「将来性がある」（28.1%）、「地域の発展に貢献できそう」（26.7%）となった（図表11）。

最終学歴別では、「イメージがよい」が高校卒（35.9%）と専門・短大卒（38.9%）でそれぞれ最も高い割合となり、他項目を上回った（図表12）。大学・大学院卒では「地域の発展に貢献できそう」（45.3%）が最も高くなった。

地域別では、「イメージがよい」は能代市（50.0%）と横手市（45.0%）、「将来性がある」は秋田市（33.3%）と横手市（32.5%）、「地域の発展に貢献できそう」は湯沢市（30.4%）と大仙市（30.0%）で他地域を上回った（図表13）。

図表11　就職先を選んだ理由は何ですか（３項目複数回答）



図表12　学歴別の就職先を選んだ理由第１位

高校卒	イメージがよい	35.9%
専門・短大卒	イメージがよい	38.9%
大学・大学院卒	地域の発展に貢献できそう	45.3%

図表13　上位３項目で回答の割合が高い開催地

イメージがよい	能代市	50.0%
	横手市	45.0%
将来性がある	秋田市	33.3%
	横手市	32.5%
地域の発展に貢献できそう	湯沢市	30.4%
	大仙市	30.0%

Q7　インターンシップの経験はありますか

インターンシップ経験がある割合は、前回調査（72.2%）から6.3ポイント上昇し78.5%となった（図表14）。本項目を設けた2003年度以降、2019年度調査（79.0%）、2016年度調査（78.6%）に次いで三番目に高い割合となった。

最終学歴別の経験割合は、高校卒（82.4%）で最も高くなった。地域別では、大仙市（86.7%）、能代市（83.3%）、湯沢市（81.8%）、大館市（80.0%）が８割以上となった。

また、インターンシップ経験者219名のうち、インターンシップ先に就職した割合は38.4%となり、前回調査（46.2%）を7.8ポイント下回った。最終学歴別では、専門・短大卒（44.4%）が最も高くなった。地域別では、湯沢市（55.6%）と大館市（50.0%）で５割以上となった。

図表14　インターンシップの経験はありますか

（単位：%）

	インターンシップの経験がある	インターンシップ先に就職した
全体	78.5	38.4
高校卒	82.4	39.6
専門・短大卒	79.4	44.4
大学・大学院卒	63.5	27.3
秋田市	72.7	31.9
大館市	80.0	50.0
能代市	83.3	40.0
大仙市	86.7	34.6
横手市	77.5	32.3
湯沢市	81.8	55.6

Q8　現在の勤め先でいつまで働きたいですか

全体では、「定年まで」(37.4%)が最も割合が高く、「分からない」(31.7%)も３割台となった(図表15)。また、「条件や状況次第では転職したい」(17.4%)と「技能習得や業務経験が十分になれば転職したい」(5.0%)を合わせた“転職派”は22.4%となった。

前回調査と比べて、現在の勤め先で定年までの勤続を希望する“定年派”は0.7ポイント低下した（図表16)。一方で、“転職派”は1.3ポイント上昇し、なかでも「技能習得や業務経験が十分になれば転職したい」が1.5ポイント上昇した。

最終学歴別では、高校卒で“定年派”(43.8%)、専門・短大卒は“転職派”(36.1%)がそれぞれ最も割合が高くなった。大学・大学院卒では、「分からない」(35.8%)が最も高く、“転職派”（30.2%）も同じ３割台となった。

２　まとめ

2025年度の新入社員アンケートでは、県内就職を決意した理由に、「住む環境として秋田県が好き」と回答した割合が最も高く、就職先を選んだ理由でも大学・大学院卒を中心に「地域の発展に貢献できそう」との割合が高くなった。

また、就職先で定年までの勤続を希望する回答割合は、未定や転職希望といった他項目を上回ったものの、低下傾向が続いている。

本県への愛着が見て取れる新入社員であるが、今後より働きやすい職場環境を求めて県外に流出することがないよう、新入社員を迎え入れた企業では、柔軟な働き方への対応も含め幅広い多様性を受け入れ活かす魅力的な職場づくりに取り組むことが求められる。

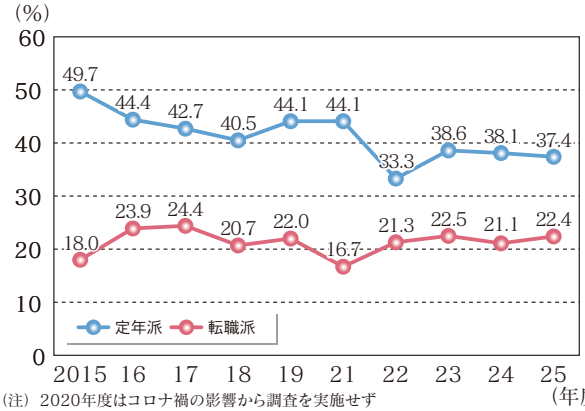
（相沢　陽子）

図表15　現在の勤め先でいつまで働きたいですか

（単位：%）

	定年まで	転職希望			将来は独立希望	いやな事があったら辞めたい	結婚・子どもの誕生を機に退職したい	分からない	その他
			条件や状況次第では転職したい	技能習得や業務経験が十分になれば転職したい					
全体	37.4	22.4	17.4	5.0	4.6	2.1	1.4	31.7	0.4
高校卒	43.8	17.7	14.6	3.1	4.7	1.6	0.5	31.8	0.0
専門・短大卒	30.6	36.1	22.2	13.9	2.8	2.8	0.0	25.0	2.8
大学・大学院卒	18.9	30.2	24.5	5.7	5.7	3.8	5.7	35.8	0.0

図表16　“定年派”と“転職派”の推移



（注）2020年度はコロナ禍の影響から調査を実施せず